

変化の激しい時代に、自ら考え、行動する確かな力を育みたい



長野県諏訪二葉高等学校

進路指導主事 野澤 誠一 先生 (写真中央)

学習指導キャリア教育係主任 久保田 宏 先生 (写真左)

1学年学習指導キャリア教育係 百瀬 公人 先生 (写真右)



長野県の諏訪二葉高等学校は、総合的な学習の時間を活用して、生徒のidentity(アイデンティティー)の確立とIndependence(自立)の精神の涵養を図ることを目的に、「I(アイ)プロジェクト」を推進しています。その二環として、1年に夢ナビプログラムを導入し、学問研究ゼミで学びたい学問の探究活動をした上で、2年生で、全生徒が夢ナビライブに参加しています。

3年間の体系的なキャリア教育「Iプロジェクト」

野澤…本校では進路指導係と学習指導キャリア教育係に分け、「Iプロジェクト」の名のもとで総合的な学習の時間を使った3年間の体系的なキャリア教育を実施しています。この学校に赴任した頃は、将来の具体像を持たず、何とかなるだろうと考える生徒が多かったと思います。それは社会や大学で何ができるか、その先

の社会とどうつながっているかを知らないからです。大学は資格を取るためとか、職業に直結するからと進学するものではありません。変化の激しい時代に、大学進学を見通したキャリア教育を通じて、いろいろな困難に柔軟に対応できるような力をつけさせたいと思っています。1年生では社会の現実や大学でどんなことを研究しているのかを知り、進路選択の力と職業観を養います。自分の将来像について、早い段階から考えさせていくことが重要なのです。

久保田…1年生の後半には「学問研究ゼミ」を行います。生徒は興味ある分野ごとにグループに分かれ、9時間かけて学びたい学問を探究します。学問の内容と合わせて、大学調べや、その学問が社会とどのようにつながっているのかということも研究してレポートにまとめ、みんなの前でプレゼンテーションします。このゼミを通じて、生徒はその学問が自分にとって本当に学びたいものなのかどうかを見極めていくわけです。

野澤…2年生で取り組む小論文では社会とつながりや課題解決の方法を考え、志望理由書によって進路実現への意思を表明させます。これらを土台として勉強へのモチベーションを高め、大学へ進学してからさらに高度な力を身につけて社会に貢献できる

人物になることをめざしています。

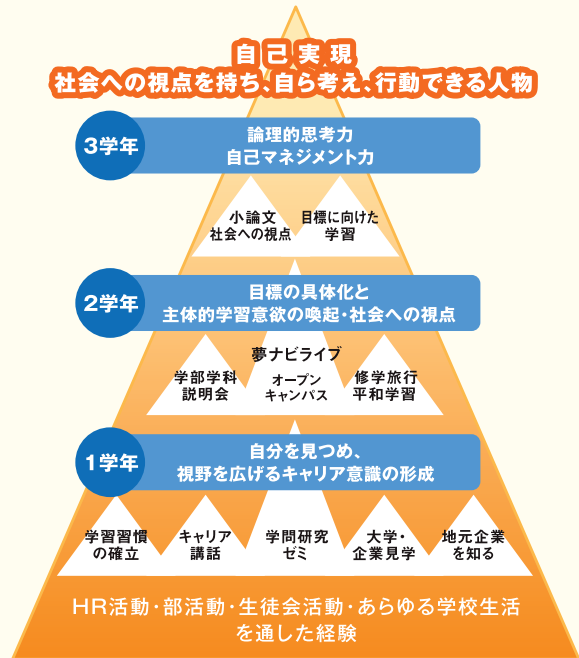
「夢ナビプログラム」と「夢ナビのサイト」の役割と効果

野澤…「Iプロジェクト」は早い段階で、生徒に将来学んでみたいことを考えさせるという狙いがありますが、そこで効果的な役割を果たしているのが「夢ナビプログラム」です。

百瀬…1年生の2学期から希望を調査して文理選択を進め、12月から「学問研究ゼミ」の探究活動が始まります。生徒たちは自分が何に関心があるかというのは漠然とイメージを持ちながらも、何が将来自分の進路に結び付くのかはまだ見えていない状況にあります。そこに、「夢ナビプログラム」を導入して、自分の関心の

ある3つの「関心ワード」を送り、大学教授から研究内容を紹介した「夢ナビ講義シート」をもらうことで、生徒たちは具体的に自分の将来や学びたい内容を考える手立てが得られると思います。自分の関心から文理や探究活動のテーマとなる学問分野を選ぼうという意識が高まりました。さらに「学問研究ゼミ」でいろいろと調べる中で、生徒はテーマとした学問の内容や社会とのつながりなどについて、自分が何をしたいのかということまで考えて、進路研究に取り組めるようになったと思います。

野澤…夢ナビのサイトは、「Iプロジェクト」ばかりではなく日頃から生徒への進路指導でも活用しています。生徒



▲キャリア教育「Iプロジェクト」の概要

は夢ナビプログラムを体験した後、さらにサイトを見るよう指導すると自分の興味関心から大学の研究の多様性を知り、視野を広げることができま。例えば、スマホは毎日使っているけど、そこに大学で研究している何があるのかかされているの

かわからない。「機械だから理系だろう」と思いがちですが、人間工学やデザイン分野、文系の人文・社会的な考え方が組み込まれてできあがっているわけです。進路をどう考えたらいいかわからない、と相談に来る生徒には、必ず「夢ナビのサイトは見たのか?」と問いかけをし、いくつか自分で調べて知識や見識を広げ、もう一度来なさいとアドバイスしています。

Iプロジェクトの成果が確認できた夢ナビライブの生徒の活動

久保田…夢ナビライブ当日の生徒の行動には、「学問研究ゼミ」の成果が表れていたように思います。「工学」「薬学」「心理学」など、明確に分野を定めた形での講義ライブを受講している生徒が多いということや、大学の個別説明ブースやまなびステーションで大学担当や大学教授に積極的に質問していた生徒が多かったです。また、生徒のアンケートでは、「薬学部でも研究職につけることや、工学部でも薬品の開発研究ができることがわかりました。化学は苦手でしたが、興味深いと思うようになりました」と自分で学びたいものをどうやって学ぶか、どんな将来があるのかを真剣に考えている生徒の姿が見てとれました。野澤…薬学志望の生徒は毎年いるのですが、親に資格を取れと言われて

理系に向いていない子が薬剤師をめざしたり、農学部や工学部でも薬学関係のことが学べるということを知らないというような生徒が多かったのです。ここまでしっかりと考える生徒が出てきたことは、成果が表れてきたということだと思います。

久保田…参加の前には、本校で作成した「計画・実績報告書」に、どの講義ライブを聴くのか、どの大学ブースにいくのかなどの計画を立てました。提出された報告書からは「歩くたび、目や耳からいろんな学びを得ることができた」「今、興味を持っている分野について、もっと知りたくなった」「自分の関心を持っている学問について、真剣に聴いている人がたくさんいてモチベーションが上がるきっかけになった」などの感想がありました。

野澤…夢ナビライブの良さは、やはり大学の先生方から「直に伝えてもらえること」だと思います。文字ではなく、先生がご自身の個性を発揮して語ってくださるので生徒たちに伝わるのだと思います。「Iプロジェクト」の流れの中で夢ナビプログラムがきっかけや動機づけになって学問研究へ深化し、夢ナビライブに参加して将来像を具体化していくという一連の取り組みを通じて、先生方がやるうとしている進路指導とキャリア教育が少しずつ充実しているように感じます。